
 特集 ワーカーズ

第2回ワーカーズ・コレクティブ全国会議

ワーカーズ・コレクティブで社会を変えられるか

1995.7.8日本青年館においてワーカーズ・コレクティブ全国会議が開催され、152団体、362名の参加でワーカーズの事例報告およびシンポジウムののち、法制化へ向けて「ワーカーズ・コレクティブの価値と原則」と「声明」が確認されました。会場は圧倒的に女性が多く、その思いのたけがあふれるように熱気に満ちた集会でした。

事例報告

1. 企業組合 轍・大泉 (東京)

後藤 尚美さん

生活クラブ生協からの業務委託としての戸配事業。メンバー22名うち男性2名。事業高3,700万円、94年企業組合として法人取得。

・なぜ法人格を取得することになったか。その課程で浮上した問題点。そして、その取り組みの中から労働の権利、自分の働き方によって生きる権利へと意識変革へ。

2. 企業組合 回転木馬・成田 (千葉)

宮川 路子さん

リサイクルショップ。メンバー7名。事業高2,570万円。

・地域事業としてのリサイクルショップの位置づけ。開業資金が少なくすむ、高齢になっても働き続けられるという利点。運営上のルールの確認について。

3. 企業組合 凡 (東京) 西 貞子さん

農産加工、仕出し。メンバー16名。事業高7,846万円。

・パート労働の限界性や事業体としての資金問題、社会保険等の問題の中から事業計画の練り直しを。

4. 港北家事サービスワーカーズいずみ (神奈川) 北島 和美さん

家事介護、食事サービス。メンバー66名。事業高603万円。

・地域での福祉政策や家事介護の位置付けへの提言。行政との対等な契約関係での提携。暮らしやすい地域社会にするための環境づくりと、サービスを拡大して事業化へ。

シンポジウム

パネラー：天野正子さん (お茶の水大学教授)

白石正彦さん (東京農業大学助教授)

コーディネーター：広岡守穂さん

(中央大学教授)

天野さんからは、ワーコレの働き方は未来の労働の先取りで、生活者として働くことが労働の質を変えていくことになるなど、13年の取り組みの意味づけがされた後、事業を通して地域社会をどう変え、何が提案できるのかということで、①地域の自立のために具体的な提案を、②志をもった働き方と市場経済の中での事業経営のバランスを、③“個”の確立と異なった意見を出し合える自主管理、の3点について問題提起。

白石さんからは、協同組合運動の歴史と原則改定の変遷および10月ICA大会で改訂される原則の検討過程を解説され、ワーコレへの提言として、①理念と実践をどうつなぐかという原則、②連合会機能の必要性、③外側からのサポートシステムの必要性の3点を提起されました。(編集部)

なお、本集会の報告集が発行されました。

第2回全国集会記録集発行 定価500円

『ワーカーズ・コレクティブで社会を変えられるか』

申し込みは：〒206 東京都多摩市豊ヶ丘1-21-1

東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合

TEL 0423-39-6082